

文学2(ドイツ文学) (German Literature)					担当教員
					講師 岩崎 大輔
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
人と文化	1年次 前期後期	講義	1.5単位	選択	

【概要】

ドイツ語圏の作家や芸術家のイタリア旅行を通じて、異文化との出会いが果たす役割や体験が芸術家や作品、社会に及ぼした影響を考えます。ヨーロッパにおける旅行の変遷や文学との関係を確認した後に、個々の作品を読解し、それらに含まれる問題点を確認します。取り上げる時代や地域は限定されていますが、これらの読解を通じて現代の我々が直面する異文化交流、グローバル化の時代における我々がとるべき心的態度についても考えるきっかけになるはずです。

授業ではいくつかの問いを出しますので、その問題について自身の考えを明確にするように心がけてください。

この授業は全てオンデマンド授業で構成します。

(前期と後期に配信する授業は同じ内容です。2回の受講はできません)

【授業の一般目標】

イタリアに赴いた代表的な作家や芸術家の作品読解を通じて、異文化交流の役割と意義について考察します。最終的には異文化交流について自分の考え方を表現できるようになることを目指します。

【準備学習(予習・復習)】

講義で扱う作品の参考資料、作品の抜粋等はmanabaのコンテンツ内に掲示いたしますので、事前に目を通しておいてください。講義では作品を講読した上で課題の問いに答えることもありますので、プリントアウトして参照するか、授業内にスマホやPC等で講読できるように準備しておいてください。授業後に改めて時間をかけて目を通し、自分なりの意見をまとめられるようにしてください。これらの読書と考察に要する時間は一週当たり150分程度を想定しています。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	ガイドンス、授業の進め方、旅行と文学	岩崎	旅の役割とは何か、それらが文学にどのように描かれてきたのかを考察することができる。
2	巡礼旅行からグランドツアーへ	岩崎	ヨーロッパにおいて中世以来盛んになってきた巡礼旅行の持つ役割、17世紀以降流行したグランド・ツアーとは何かについて理解することができる。
3	ヴィンケルマン	岩崎	ヴィンケルマンのイタリア滞在と著作が後のドイツ思想界に及ぼした影響について理解することができる。
4	ゲーテ (1)	岩崎	ドイツ文学史上、ゲーテのイタリア旅行が有する意義について理解することができる。
5	アルカディアとしてのイタリア	岩崎	アルカディアとは何か、なぜイタリアが理想郷と見なされたのかについて文学作品の読解を通じて理解することができる。
6	ゲーテ (2)	岩崎	ゲーテ自身の体験をもとに描かれた作品『イタリア紀行』の特徴と後世への影響の大きさを理解することができる。
7	ヘルダーのイタリア旅行 (1) □	岩崎□	ヘルダーは日本においてほとんど馴染みがないが、ゲーテやドイツ思想界に及ぼした影響は少なくない。彼のイタリア旅行が与えた影響について理解することができる。
8	ヘルダーのイタリア旅行 (2) □	岩崎	ヘルダーのイタリア旅行が彼自身の作品にどのように描かれ、ゲーテらに影響を及ぼしたのかを理解することができる。
9	ロマン派のイタリア旅行	岩崎	ドイツ・ロマン派の特徴の一つである「永遠なるものへの憧れ」とイタリアがどのように結びついているのかを考察することができる。
10	ハイネ	岩崎	詩人として有名なハイネのイタリア旅行が作品にどのように結実しているのか、ゲーテらのイタリア像とどのように異なるのかを確認することができる。
11	ニーチェ	岩崎	哲学者ニーチェは同時に詩を数多く残す詩人でもあった。彼の詩にイタリアでの滞在がどのように描かれているのかを確認することができる。
12	トーマス・マン	岩崎	『ヴェニスに死す』に特徴的に表れているように、憧れの地であったイタリアがいかにして死と結びつくようになったのかを考察することができる。

13	イタリアに対する嫌悪	岩崎	ドイツにとってイタリアは古来憧れの地であると同時に嫌悪の対象でもあった。どのようにして嫌悪感が生じるようになったのか、その理由を宗教的背景から理解することができる。
14	音楽家のイタリア旅行	岩崎	ヨーロッパにとってイタリアはルネサンス以来模範となる地であった。音楽家のイタリア旅行が作品にどのように影響を及ぼしたのか、結実したのかを理解することができる。
15	総括・まとめ		レポート作成

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	指定の物は特になし。 講義資料としてmanabaにて配布します。		
参考書	増補ドイツ文学案内	手塚富雄、神品芳夫	岩波文庫
	イタリア旅行 「美しい国」の旅人	河村英和	中公新書
	たち		
	グランドツアー 18世紀イタリアへ	岡田温司	岩波新書
	の旅		
	英国流 旅の作法 グランド・ツアー	中島俊郎	講談社学術文庫
	から庭園文化まで		
	旅行の世界史 人類はどのように旅	森貴史	星海社新書
	をしてきたのか		

【成績評価方法・基準】

定期試験 [学期末レポート] 50%、リアクションペーパー40%、講義内の取り組み10%として評価します。

【評価のフィードバック】

成績評価の講評については、合格発表以後にmanaba上に掲載します。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

メールまたは育心館4階岩崎研究室まで